

第1回 宗像市市民文化・芸術活動審議会  
会 議 議 事 録

日 時	平成30年4月16日(月) 15:00～17:30	
会 場	メイトム宗像2階202会議室	
出席者	委員	<input checked="" type="checkbox"/> 古賀 <input checked="" type="checkbox"/> 原 <input checked="" type="checkbox"/> 大澤 <input checked="" type="checkbox"/> 吉田 <input checked="" type="checkbox"/> 内 <input checked="" type="checkbox"/> 牟田
	事務局	<input checked="" type="checkbox"/> 古沢 <input checked="" type="checkbox"/> 大塚 <input checked="" type="checkbox"/> 愛月 <input checked="" type="checkbox"/> 白木(文化財) <input checked="" type="checkbox"/> 岡(世界遺産)

1. 会長あいさつ

2. 宗像市文化芸活動事業補助金交付事業の報告会

(1) M. M. S. T

【M. M. S. T】事業報告

【委員A】ここから質疑応答に入る。委員から質問があればお願いしたい。

【委員C】当初の申請はサクスのコンサートだったが、さまざまなコラボレーションになった経緯を知りたい。

【M. M. S. T】市とのやり取りの中で、サクソフォンのソロコンサートではなく、コラボレーションのプログラムをやってきた経験もあることから、経験を生かしたプログラムを組んだ。

【委員C】申請書に目を通した時に一般的なコンサートとは思わなかった。結果的にジャンルを超えたコラボレーションにより、創造的な側面が増えたように思う。「シンプルクリエイション」というタイトルだったが、シンプルさはなくなった。コラボレーションすることに無理やりさはなかったか。

【M. M. S. T】2015年にも福岡市で同様の活動を行った。その際も「シンプルクリエイション」というタイトルで行い、さまざまなジャンルの作家が、自身の専門分野を生かした創作をすることで一つの事業とする企画をした。今回はコラボレーションしたが、それぞれの作家のソロの部分もあったため、無理やりさを感じることはなく、過去の活動に立ち返ったような感覚だった。

【委員C】会場間の移動をやってみてどうだったか。

【M. M. S. T】参加者には当日まで移動があることを公表していなかった。65歳以上の方には「ミステリーツアーのようだ」と喜んでいただけただけだ。

【委員B】開催日が年末で仕事納め等と重なっている中でシニア優待を設け、65歳以上のチケット料金を無料にすることで集客を確保したことは評価する。例えば、中学生以上の学生を優待したり、学生料金としてチケット料金をワンコインに設定する等、学生を集客するような仕掛けがあれば集客が見込めたのではないかと思う。一般料金の半額が学生料金という設定はよく見かけるが、学生にとってはチケット料金が2千円程度でも高いと感じるようで、なかなか手を出せない。次年度以降も実施されるようであれば、席を埋めるためにも実践してみたい。さまざまなジャンルでコラボレーションしているが、どのようなプログラムで融合したのか教えて欲しい。

【M. M. S. T】落語が異色ではあるが、この落語家とは過去にも一緒に活動をしたことがある。単純なコンサートの中に異色な何かを取り入れたいと考え、落語を「音」の表現の一つとして捉え、出演していただいた。

【委員D】会場が鎮国寺となっていたが、お堂で行ったのか。

【M. M. S. T】お堂の隣の講堂で開催した。

【委員D】音響に問題はなかったか。

【M. M. S. T】人的なネットワークを駆使し、文化活動に理解のある音響の業者に安価で協力していただいた。畳と木造建築という構造が音響としても良いそうで、音響の問題はなかった。

【委員 D】お寺からホールに移動しているが、来場者は音に対する違和感がないようなプログラムだったのか。

【M. M. S. T】ホールは一つの音を聴かせるための施設であるが、参加された方からは鎮国寺では音のリアリティーを感じたという感想があった。

【委員 F】年末年始は多忙な時期なので、日程を検討する必要はあったと思う。また、クオリティーの高いものであると音楽に携わっていない人にとっては敷居の高いものになったのではないかと思う。鎮国寺からホールに移動し、環境を変えるということは意表を突くという意味で良かったのではないかと思う。もう少しPRの工夫をしていただけると良いと思う。

## (2) 宗像少年少女劇団

【宗像少年少女劇団】事業報告

【委員 A】ここから質疑応答に入る。委員から質問があればお願いしたい。

【委員 D】応援団を結成し、年会費を集めて運営資金にするとのことだが、年会費の設定金額と全体の収入に占める割合を教えて欲しい。

【宗像少年少女劇団】劇団創立30周年記念公演の出演者を募集している。200人弱の卒団生に呼びかけをしており、出演希望者は20数名であるが、近況報告があった卒団生50名近くから連絡があっている。恐らく、応援団の会員になってくれることと思うが、現段階では確定していない。応援団を結成する方向性は決定しているが、年会費の金額など、詳細は今後検討していく。

【委員 B】指導者を育成することに力を注がれていたと思うが、映像を残したり、マニュアルを作成するなど、引き継いでいけるようなものを作ることはできているか。

【宗像少年少女劇団】引き継いでいけるようなものを作ることはできていない。感性を頼りにしているところもあり、マニュアルにするのは難しい面がある。

【委員 C】財源を獲得する努力が素晴らしいと思う。次回は申請されないとのことだが、補助金の交付を受けた2年間で宗像少年少女劇団にとって、次のステップに繋げるための申請であり、形になったことを嬉しく思う。また、次のステップアップの際に補助金申請していただきたい。次を目指していくためにこの補助金を利用しており、とても良いモデルケースになったと思う。

【委員 F】発表には、市のこども芸術祭などを活用して欲しい。

【宗像少年少女劇団】子ども達は舞台を踏むごとに大きく成長する。こども芸術祭や環境フェスタへの出演を今後も続けていきたい。

【委員 F】コミュニティ・センターなどの身近な施設でも発表してもらえると良いと思う。

【宗像少年少女劇団】子ども達は土日しか休みがないため、難しいところもある。過去にはバスを準備して出前公演に行っていたが、子ども達は勉強だけでなく習い事も忙しく、時間を作ることが難しい現状があり、課題と認識している。

【委員 C】どうしても劇団という枠の中での活動になるところがあると思うが、若い指導者は外部との交流はあるか。

【宗像少年少女劇団】指導者も働いており、外部との交流をする時間を取ることは難しいが大切だということは理解している。

【委員 A】福岡県委員 E で子ども達のミュージカルの劇団があるが、公演を観に行くことはあるか。

【宗像少年少女劇団】ない。劇団四季や文学座などの劇団に所属している卒団生がおり、

年に一回、観に行くだけでも意識の向上に繋がると言われている。市委員 E で活動する劇団とは、こども芸術祭などで関わりがあるため、観劇することはあるが、市外で活動する劇団を観劇することはない。

【委員 A】子ども達にとっては、プロの公演を観ることは良い勉強になるし、指導者にとっても良い勉強になる。小郡市や鳥栖市では、子どもの劇団が活発なので、観に行っていたきたい。

【委員 B】バックヤードやリハーサルを見せるプロの劇団もあるので、ぜひ、活用してもらいたい。

【宗像少年少女劇団】外にも目を向けて、頑張っていきたい。

【委員 F】少年少女劇団から大人向けの劇団に展開していけると良いと思う。

### (3) 意見交換

【委員 A】事業報告の感想を含め、意見交換を行いたい。

まずは、M. M. S. Tの活動について。シニア層に働きかけたことが有効だったのか、シニア層に働きかけるのであれば、企画委員 E 容はあの形で良かったのか疑問に思う。二日目にトークセッションにゲストとして呼んでもらったが、来場者は関係者ばかりだった。日程が年末だったこと、夕方から夜にかけて時間帯であったこと、気候などの理由によりキャンセルがあったと思われる。シニア層をターゲットに据えるのであれば、今回の企画委員 E 容は少し外れていたのではないかと思う。

【委員 C】コラボレーションが良くなかったのではないかと。事務局側とのやり取りの中で申請委員 E 容から変更したことが良かったのかどうか。

【事務局】当審議会において、「ただのコンサートにならないように」という意見が出ていたこと、例えば、コラボレーションをするという意見があったので、M. M. S. Tに伝えて出てきた企画が今回の事業報告された委員 E 容。事務局からは、このような組み合わせにして欲しいとはお伝えしていない。

【委員 A】企画力に若干の不安やマネジメントの弱さを感じた。M. M. S. Tは、やりたいことに任せても良いかなと思うところもある。創造の拠点とまではいかないが、発表の場として宗像が面白いと思ってくれたら審議会としても嬉しい限りである。宗像では鑑賞できないような場を作ってくれているので、そこを評価して、2年目、3年目の事業の様子を見ていきたい。

【委員 C】参加者数の少なさは改善して欲しいが大きな問題ではない。「新たな創造性」がテーマの補助金のため、参加者数を過大に課題意識しない方が良いと思う。

【委員 A】来場者数が少なくて勿体ないと思うくらい、中身は良いものだったと思う。

次回、少しでも来場者が増えると良いと思う。今後も続けてやってくれそうか。

【事務局】平成30年度も申請したいという話を受けている。宗像でアトリエを探したいと相談を受けており、お手伝いをしているところ。

【委員 A】宗像少年少女劇団はいかがか。

平成30年度は申請しないとのことだったが、ステップアップに繋げるために補助金を活用していただき、良い使い方をしてくれたと思っている。舞台を観劇することができなかったが、どのようなものだったか。

【事務局】宗像ユリックスの600人規模のホールが、7割程度の来場者数だった。宗像少年少女劇団は公演までの過程が大事だったので、舞台を観る限りでは、しっかり練習等もされていると感じた。

【委員 C】劇団委員 E 部で完結している活動から、外にも目を向ける必要があると理解されていたので良かった。

【委員 A】事務局としては、どのような印象を持っていたか。

【事務局】30年ほど活動をされている中、経理等もきちんとされており、問題ないと思う。平成28年度の公演では出演者の保護者だけでなく、卒団生も多く来場しており、立ち見が出るほどの集客があった。味方につけることができれば、財源の確保も上手くいくと思う。

委員C 委員からの話にあったように劇団のステップアップという点では、こども芸術祭には毎年出演しているが、こども芸術祭に出演する団体が固定化してきており、新たな刺激を受ける機会は少ないように思われる。外に出て、刺激を受けてもらいたいと思う。

### 3. 文化芸術のまちづくり10年ビジョンの進捗報告

【事務局】文化芸術のまちづくり10年ビジョンの進捗報告

【委員A】「①すべての市民が文化芸術を鑑賞・体験できる環境をつくりまします」から質問や意見があればお願いしたい。

【委員】特になし。

【事務局】「大きなクスの木の下で」美術館展を「福岡県立美術館所蔵品巡回展」という形で福岡県立美術館と実行委員会を立ち上げて開催する。

【委員A】前回の福岡県立美術館所蔵品巡回展の開催の時にアートボランティアの育成を始めていたと思う。今回で2回目の開催か。

【事務局】2回目の開催となる。

【委員C】「③文化芸術を活用したまちづくりを推進します」に「(4)公共ホール現代ダンス活性化事業」となっているが、「①すべての市民が文化芸術を鑑賞・体験できる環境をつくりまします」の「1-3芸術文化の体験機会の創出」に位置付けた方が良いのではないか。

【委員A】地域創造はダンス活性化を目的としていると思うため、確認しておいて欲しい。続いて「②文化芸術の作り手の活動を支えます」について、質問や意見があればお願いしたい。

【委員C】「2-3データベースの構築と拡大」について、どういうことをして良いか分からないのと思うが、まずはやってみないと進まない。例えば、本日の報告会にしても交流できるような形にすると良いと思う。

【委員A】データベース構築について、音楽分野は出来つつあるとのことだが、ミアーレ音楽祭の出演者が主ではないかと思われる。募集しても良いが、ルールを作らなければ玉石混淆の状態になるだろうし、どういうルールを作るのかは非常に難しい。ミアーレ音楽祭の出演者や市の事業、ユリックスの事業で関わった方のリストを作り、その方々の活動を何等かの形でお知らせしていくというようなものにしても良いと思う。

【委員C】飲み物やお菓子などを用意して、適当にアットホームな雰囲気にするなどの演出が大切だと思う。フェイスブックやツイッター、ラインなどのSNSを活用し、そこに登録すれば情報が発信、受信できる仕組みを作っても良いかもしれない。

【委員F】文化施設を使っている団体同士の交流がない。さまざまな分野の方がユリックスを利用しているため、団体同士の交流会をすることでコラボレーションが生まれる可能性があると思う。

【委員A】トライアンドエラー（試行錯誤）で何かをやってみて欲しい。

続いて「③文化芸術を活用したまちづくりを推進します」について、質問や意見があればお願いしたい。

【委員C】「(2)大規模国際大会を契機とする文化芸術活動の推進」について、ブルガリア柔道とロシア女子ラグビー選手との交流については、せっかくの機会なので

活用した方が良いと思う。ブルガリアやロシアの文化を市民に紹介するという形と、宗像の文化をブルガリアやロシアの方に紹介するという形があるので、雑談の中であった食文化という切り口で宗像の文化を伝えるという形をとっても良いと思う。

【委員 A】「3-2文化芸術の他分野への活用」について、いきいき出前コンサートやすすくコンサートはもともこのカテゴリだったか。

【事務局】もともこのカテゴリにしていた。

【委員 A】ユリックスが実施しているいきいき出前コンサートやすすくコンサートについては、文化芸術の他分野への活用の要素を取り入れたものを実施して欲しいという意向があるという認識でよろしいか。

【事務局】文化芸術の他分野への活用の要素を取り入れたものを実施して欲しいという意向があるが、現状としては鑑賞機会の提供に留まっている。

【委員 A】続いて「④文化芸術的資源を保存・活用・継承します」について、質問や意見があればお願いしたい。沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に登録されたことで、多くの人が宗像市を訪れている。

【事務局】日曜日は宗像大社の駐車場がいっぱいになる。

【委員 C】現代は海の道を意識していないが、中世などは海路が主流だった。その点を打ち出した企画をできると単なる観光だけではなく、深まるものがあると思う。

【委員 D】観光客は朝早い便で大島に来て、中津宮にお詣りし、海鮮料理を食べて、お昼の便で帰られる。そして一度しか来られないので、次に来る何かを考えないといけない。

【委員 C】体験する企画が必要ではないか。

【委員 D】島委員 E を巡回するバスがあるため、休日は利用者が多い。

【委員 A】イベントのような一過性のものではなく、恒常的に文化財の魅力を伝えるものを持つておく必要がある。

【事務局】沖ノ島祭祀を支えた宗像人の暮らしが見えず、行けない島ということが先行してしまっている。今年度「宗像教授異考録」の委員 B 画を展示するので、このような機会に理解を深めていただきたい。

【委員 F】海の道むなかた館は来場者が年間10万人を超えている。しっかりした企画も行われている。

【委員 A】海の道むなかた館では地域学芸員も活躍されている。

【委員 F】宗像大社と隣接している効果もあると思うが、宗像大社と連携して事業を進めて欲しい。世界遺産登録されたから何かするというのではなく、温かく沖ノ島を守っていくという姿勢が良いのではないかと思う。

【委員 A】守ることが一番大切なことだと思う。

【事務局】沖ノ島が荒らされるのではないかと心配されていたが、レジャーボートの接近も減っている。

【委員 A】大切なものだと認識されているのだろう。

【委員 C】M. M. S. Tにこのような地元の取り組みについて、紹介してはどうか。民俗学的な視点や歴史的な視点を踏まえた作品を作るアーティストが増えている。

【委員 A】続いて「⑤文化芸術に関する総合的な仕組みをつくります」について、質問や意見があればお願いしたい。

【委員 C】評価、検証は難しいと常々思うが、このような資料を見ても、来場者が何名だったか、何本実施したかなど、実績づくりのために記載されるようなことが起こりがち。確かに数字も大切ではあるが、この事業や施策が何のためにやったのか、その目的は実現したのかという検証をできると良いと思う。

【委員 A】検証は平成31年度か。

【事務局】検証は平成31年度に評価委員会の中で行う。

【委員 A】全体を通じて、質問や意見があればお願いしたい。

【委員 F】小学校、中学校などの学校に出向いてコンサートを行っているが、参加した子ども達を対象にしたアンケートなどを行っているか。

【事務局】特に行っていない。

【委員 F】簡単で良いので、子ども達の気持ちを聞くようなアンケートを行って欲しい。

次回日程：平成30年 6月28日（木）14：00～